

画論 25th The Best Image 参加報告

手稲溪仁会病院 診療技術部 板谷春佑

H30 1/27 に開催された画論 25th The Best Image に参加してきた。その中の CT ディスカッションについて報告する。

とその前に・・・(本題を読みたい方は2ページ目へまで飛ばしてください)
貴重な体験をしましたのでお付き合い下さい..

1/26(金)・・・前日より天気は大雪予報。札幌は朝から予報通り大雪が降っていた。夕方から移動予定だった私は朝から新千歳空港の羽田便の発着予定をチェックしていた。午前中の便は遅くとも1時間ほどの遅延で離着陸していたので問題ないと楽観視していた。ここに千歳空港と JAL を取り巻く大きな落とし穴があったのだ。

その日仕事が思ったより落ち着いていて、職場仲間の好意で昼過ぎから空港に向かえることになった。すでに雪は止んでいて、JR の中であわよくば早い便で出発しようかと考えていた。しかし14時前新千歳空港に到着すると JAL のチェックインカウンターに大行列があった。あれ?と思い電光掲示板をみると1便欠航、その他すべての便が発見合わせになっていた。なんと遅延どころか出発の目途も立っていない状態だった。遅れても1~2時間かな?とまだ楽観視していた私は予約している便が欠航になるかもしれないので念のためキャンセル待ちをしよう・・・時間もあるし・・・と長い行列に並んだ。それが甘かった。列の最後尾から90分以上待たされた上、カウンターにつくとキャンセル待ちしている方が130人以上いますかキャンセル待ちしますか?との問いが・・・ここまで待ったんだからするよ!と少し怒りを覚えながらキャンセル待ちの受付をした。そのとき15時半。これからゆっくり仕事をしようとクレジットカードラウンジへ。ラウンジも混んでいたがなんとか席を確保でき、飲み物を飲みながら少し休んでいると JAL からメールがきた・・・18時の予約便が20時30分まで遅延・・・まあ予想通り2時間ちょいの遅れか・・・。そこからPCとにらめっこし、溜まっていた仕事をこなしていた。ふと気づくと17時すぎになっていて、晩御飯どうしようかと考えていたら画論審査員の Y 口さんのことを思い出した。同じ時間帯の便かなと思い連絡してみると、Y 口さんはちょうど新千歳空港に到着したところで私と同様に予約便が遅延していた。一緒にご飯どうですか?と誘ってみると「飲みますか!店物色中!」と連絡がきて18時すぎに合流することになった。荷物をまとめてラウンジから移動しようと思ったら JAL からメールが・・・18時の予約便が21時50分まで遅延・・・え?さらに?昼過ぎからずっと晴れてるのに・・・!怒りを覚えながら Y 口さんと合流した。お互い予約便はすでに21時以降に遅延しており飲み放題にしようか!という感じになり、なんと新千歳空港で90分宴会をすることになった。まさか千歳で飲み放題を付けるとは・・・結果たくさんお話をさせていただき有意義な時間だった。結局21時半ごろに飛ぶ便に乗れて東京のホテルに着いたのは次の日になっていた。よくよく考えてみるとキャンセル待ちの呼び出しに1回も行かなく、7時間ぐらい新千歳空港滞在してい

た。長かったようなあつという間だったような有意義な時間だった。飛行機慣れしていない私にとって新鮮な体験だった。

本題の画論レポート

今回の入賞は診断支援、手術支援および超高精細 CT と広範囲な分野に及んだ。北海道からは2施設：華岡青洲記念心臓血管クリニックの近藤さんと NTT 東日本札幌病院の金山さんが受賞し、なんと近藤さんは ONE（心血管）部門の最優秀賞およびテクニカル賞をダブル受賞されていた。

手術支援の受賞は3Dにより術野を表現することはもちろんのこと、撮影のポジショニングまで工夫することでより高精度な支援画像を作成していた。

超高精細 CT の受賞では手関節腫瘍や腹部神経叢の描出が入賞しており「見えていなかったものが見える」時代に到達したとあらためて感じた。

ONE 最優秀賞を受賞した Dual Energy CT を用いた膝蓋骨の不顕性骨折描出は 3 material decomposition を利用し明瞭に髓内出血を描出していた。この画像は他メーカーも含め報告が多々されているが、今まで見た中で一番明瞭に描出できていると感じた。この処理がアプリケーション化されることを願う。

我らが華岡青洲の近藤さんは Coronary subtraction と delayed enhance を利用した心サルコイドーシスの診断であった。冠動脈に対しては非剛体 subtraction を用いることで視認しにくいステント留置後の冠動脈評価を行うことができ、さらに心筋に対しては delay 撮影と非剛体 subtraction を組み合わせることで線維化した心筋に造影剤が貯留する delayed enhance をより明瞭に描出していた。今後エビデンスを確立され広く臨床応用できることを願う。

また ONE 部門に入賞した NTT 東日本札幌病院の金山さんは遊走脾の手術支援画像で、しっかりとした造影タイミングで撮影し、ねじれた血管の位置関係を詳細に3Dで表現していた。

どちらの最優秀賞も ADCT の利点をフルに利用している撮影・再構成であった。同じ ADCT を使っている身としては非常に参考になる活用方法ばかりであり、さらに次の画論に応募できるような撮影・再構成を行っていきたいと思う。

